

令和6年度事業報告別紙

1 沿革

2003/6/14 任意団体環境防災研究会を立上げ植物生体電位観測を開始
2003 MF 帯電磁気観測、大気イオン濃度観測等他方式グループとの交流開始
2005 植物生体電位、電磁気観測装置開発開始
2007/6/3 スペイン人との交流を基に地震発生予測実験活動開始
平成27年(2015)1月7日 NPO法人地震前兆総合観測センター設立
平成27年(2015)12月17日 定款変更、NPO法人環境防災技術研究所に改称
平成28年(2016) 中波帯AM 放送波活用電離層擾乱観測装置開発を完了
平成29年(2017)FM 見通し内観測観測装置開発を完了
令和元年(2019)8/31 付で認定NPO法人と認められた
平成31年- 令和元年(2019) AM 放送波活用電離層擾乱観測を相模原主局、浜松従局、函南補助局として開始
令和2年(2020) AM 放送波活用電離層擾乱観測の相模原主局を継続、浜松、函南従局を休止
令和4年(2022) LF, UHF 帯電磁気観測を相模原、函南、浜松観測点にて開始
令和5年(2023) LF, UHF 帯電磁気観測を横浜観測点にて開始
令和6年(2024) 認定NPO法人の認定資格を返上

2 会員数

令和5.12.31現在で33名(昨年度33名)

3 事業内容詳細

- ① 受賞
 - ・特になし
- ② 全国観測計画実現のため民間助成金申請
 - ・特になし
- ③ 人脉を頼っての観測点設置、資金提供協力者を探した
 - ・新潟県内会社社長
 - ・神奈川県内会社社長（高齢者施設向け）
 - ・東京都内会社社長
 - ・警備会社
 - ・相模原市議会議員
- ④ この分野に助成意思のある個人にアプローチ
 - ・アニメ制作者

4 特定非営利活動に係る事業

- ① 再生可能エネルギーに関するシステムの研究開発に関する事業
 - ・特になし
- ② 家庭、産業廃棄物再利用に関するシステムの研究開発に関する事業
 - ・特になし
- ③ 地震前兆観測システムの研究開発に関する事業

装 置 名	開 発 項 目
デ タ 处 理 装 置	
改 修	特 に な し
電 离 層 摶	特 に な し

乱 観 測 置	
改 修	特 に な し

④ 地震前兆観測及び予測実験に関する事業

観 測 点 名	観 測 状 況	観 測 項 目	
鉢 田	稼 働 中	MF, VHF 帯 2 周 波、 FM 見 通 し 内	
八 街	稼 働 中	植 物 生 体 電 位 、 ハ ム ス タ 一 、 地 磁 気	
横 浜	閉鎖	MF 、 VHF 、 UHF 帯 電 磁 気	
相 模 原	稼 働 中	植 物 生 体 電 位 、 LF 、 MF, VHF 、 UHF 帯 電 磁 気 、 電 離 層 扰 亂	
厚 木	閉 鎖		
函 南	稼 働 中	植 物 生 体 電 位 、 LF, MF, VHF 帯 電 磁 気 電 離 層 扰 亂 (休 止 中)	
浜 松	稼 働 中	LF, MF, VHF 電 磁 気 電 離 層 扰 亂 (休 止 中)	

⑤ 観測データのオンライン収集・処理・配信に関する事業

予測情報発信回数

発 行 日	Sandra の 地 震 予 報 No.
令 和 6 年 1 月 2 日	1275
↓	
令 和 6 年 12 月 3 1 日	1327
年 間 発 行 回 数	52 (昨 年 度 51)

予測評価

評 値	2007/06	
	～	
	2024/12/31	
	累 計	
	件 数	%
(◎ ○) 的 中 率	1286	54%
△ 準 的 中 率	866	36%
(◎ ○) △ 相 関 率	2,152	91%
× 空 振 り 率	141	6%
××	48	2%
合 計	2,341	100%

ホームページ閲覧数

(Heteml top Access 解析→ www.jsedip.jp)

年月	訪問回数
2023年1月	
2023年2月	
2023年3月	
2023年4月	
2023年5月	
2023年6月	
2023年7月	
2023年8月	
2023年9月	
2023年10月	
2023年11月	
2023年12月	
本年度合計	
開始以来累計	

観測Server運営会社の都合でAccess解析ができなくなり詳細不明。

⑥ 地震前兆現象研究に関する普及啓発事業

2024/3/9

京大東京オフィスにおける意見交換会

2024/1/1 能登半島地震 M7.6 AM 放送波活用電離層擾乱観測による前兆現象

2024/9/26

日本地震予知学会 臨時情報交換会

2024/8/8 日向灘地震 M7.1 AM 放送波活用電離層擾乱観測による前兆現象

⑥ 新方式に関して

- 特になし

5 その他特記事項

- AM 放送波活用電離層擾乱観測の成果により M=6 以上の大地震に先行して 1 週間以内に全国的に電離層が乱れることが分かった。
- 従って全国各地から相模原の Path において同時に擾乱が観測された場合は 1 週間以内に大地震が発生すると予測が可能になった。
- 多周波帯 2 周波同時観測方式にて震源の位置の特定が可能になることはすでに実証済で、観測点を増やせば全国の地震予知が可能となる。